

京都

らるつきまわりんぐ

金閣寺



私が金閣寺を訪れたのは、まだ肌寒さが残る春先のことだった。百万遍の停留所から乗った102系統のバスに揺られること20分。金閣寺道で下車し、何組かの観光客とともに境内へ。

カエデの林を横目に石畳の参道を歩いていると、鐘の音が聞こえてきた。総門に入って左手に見える鐘楼で体験できる鐘撞きの音である。私も鐘楼に登り、撞

木を引いて一撞き。凛とした響きが体に伝わってきて、なんとも心地よい。補助をしてくれたお寺の方から記念の絵葉書を貰いつつ話をした。京都の人は珍しいとのことであつち長く喋ってしまった。天然記念物に指定されている榎の木を見上げつつ奥に進み、受付で参拝券となつて

いるお札を受け取って中へと入る。

端、金閣の眩い姿が私の目に飛び込んできた。金閣とそれを映す「鏡湖池」の静かなたたずまいは、写真で幾度となく見た姿とは比べ物にならないほど華やかさと優美さに満ちていた。

何枚か写真を撮った後、私はふと現在2・3階だけ金箔で覆われている金閣が全て金箔で覆われていたらどうだっただろうかと考えてしまった。そのような金閣は見る者に重く単調な印象を与え、今ほどの感動はなかったかもしれない。

そのまま池のほとりを歩いていく。半周ほど進むと金閣が間近に迫ってきた。普段写真などには撮られることのない金閣の裏側を見ることができ、なかなか興味深い。その右手には足利義満自ら植えたと伝えられている「陸舟の松」が姿を見せていた。名前の通り確かに帆かけ船の形をしている。この形になるまでにどれほどの年月がかけられたのだろうかと思うと、先人の偉業に感嘆させられた。

さらに順路を進み、階段を上ると金閣寺にあるもう一つの池、「安民沢」が見えてくる。もう春だというのに、鴨がのんびりと羽を休めていて、和やかな雰囲気がかもし出していた。

最後に不動堂に立ち寄った。この前には土産物屋や外国人向けのおみくじなどもある。不動堂を過ぎて出口に向かった私は、金閣寺の余韻に浸りながらなだらかに続く石段を一段ずつ下りた。きらびやかさが強調されやすい金閣寺だが、私にはどこかやわらかさを感じさせる場所でもあった。(ナツメ)



参拝時間	参拝料	鐘撞き
9:00~17:00	400円	200円

京大周辺からのアクセス

- ・市バス「百万遍」より102系統に乗り、「金閣寺道」下車、徒歩3分
- ・市バス「熊野神社前」より204系統「丸太町金閣寺」行きに乗り、「金閣寺道」下車、徒歩3分

